

クビアカツヤカミキリ (*Aromia bungii*) について

1. 生態等について

【分類】コウチュウ目 ハムシ上科 カミキリムシ科

【学名】*Aromia bungii*

【和名】「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」では、“クビアカツヤカミキリ(クロジャコウカミキリ)”を使用している。一部では、クロジャコウカミキリと呼称する場合もある。

【原産地】中国、台湾、朝鮮半島、ベトナム北部など

【体長・体色】成虫の体長は、約2.5～4センチ。全体的に光沢のある黒色で胸部(首部)が赤い。海外では、胸部(首部)が黒い個体も確認されている。

【被害・生態】幼虫が生木に食入・加害することで樹木を衰弱させる。幼虫が生木の内部を摂食(その際、フラス(木屑等)を排出)し、樹木内で2～3年かけて成長、蛹となり、我が国の発生地では6月中旬～8月上旬頃に成虫となって樹木の外に出る。雌成虫は、交尾後、幹や主枝の樹皮の割れ目に産卵する(8～9日後にふ化)。

【寄主植物】サクラ、カキ、オリーブ、ハコヤナギ、セイヨウスモモ、ウメ、モモ、ザクロ、コナラ、ヤナギなど

【写真】



成虫(植物防疫所原図)



枝にたまったフラス(植物防疫所原図)



根本にたまったフラス（桐山哲氏原図）



成虫雄（桐山哲氏原図、左：日本で確認された
個体、右：海外で確認されている個体）

2. 発生状況

本種の成虫又は本種が疑われるフラスが確認された地域は以下のとおり。

発生確認年	都道府県	主な確認場所
平成 24 年	愛知県	神社、民家のサクラ
平成 25 年	埼玉県	用水路沿いのサクラ
平成 27 年	群馬県	公園、神社のサクラ
	東京都	公共施設のサクラ
	大阪府	公園のサクラ
	徳島県	公園、神社のサクラ、果樹園のモモ

3. 調査・防除方法

通常の管理の範囲内でフラス（木屑等）が確認された場合、本種の発生が疑われるため、フラス確認後は、成虫の発生時期（6～8月）に当該樹木を中心に成虫の有無を調査する。

成虫を見つけた場合は捕殺する。また、幼虫の食入孔を見つけた場合は、針金を食入孔に差し込むことによる刺殺に努めるとともに、羽化した成虫の分散防止及び新たな産卵を防止するため、羽化期から成虫の産卵時期にあたる6～8月に、ネット（防鳥ネットとして利用されているもの、目開き4mm以下）等を樹幹に巻き付ける。

なお、複数の食入孔や脱出孔が確認された樹木については、確認できない食入孔があるなど、当該樹木からの個体の完全な排除は困難である

ため、成虫が拡散しないような措置を取った上で、伐倒等を検討する。
(食入孔が見つかることが多い場合、根まで侵入している可能性が高い。)
なお、伐倒木については適切に処理すること。

また、当該種による加害が進むと、落枝、倒木等による人的被害が発生するおそれがあるとともに、枯死した樹木を安易に移動させることは、当該種が拡散し、被害の拡大につながるので注意が必要。



ネットを樹幹に巻き付けている様子

【登録農薬】

- ・ 樹木類のカミキリムシ類：MEP 乳剤
- ・ 果樹類のカミキリムシ類：昆虫寄生性糸状菌製剤